

# 令和5年度一般財団法人笠間市農業公社事業計画

## 1 基本方針について

昨今の農業情勢は、農家の高齢化や担い手不足といった慢性的問題、耕作放棄地の増加、農産物の価格低迷のほか、コロナ禍によるインバウンド需要の減少や外食自粛など農産物消費の変化や国際情勢不安による原材料や燃油等の価格高騰による農業経営への影響など、農業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

このような中、一般財団法人笠間市農業公社（以下「公社」という。）は、茨城県・笠間市・JA常陸等を中心とする関係機関との連携のもと、市内の農業者が効率的・安定的な農業経営を実現し、所得向上につながるよう支援すると共に、公社自体も自立した経営となるよう各種事業を推進します。

公社の具体的事業につきましては、引き続き「笠間の栗」に重点を置き、栗の借受ほ場を適正に管理し、良質な栗の生産を行うほか、栗の加工品の販売商品を充実させるとともに、笠間の栗のブランディングを進め、公社の収益事業の拡大を図ります。

また、「楽栗 LaKuri」は、現状では概ね順調な営業状況となっており、健全な経営を目指すとともに更なる販売力の強化を図ります。

農地中間管理事業につきましては、農業者が大幅に減少していく中、農地等の生産基盤を守るため、公社設立当時から担い手への農地集積を進め、これまでに939haを集積しました。今年度も引き続き農地集積を推進し、良好な農地の保全に努めます。

## 2 部門別事業計画

### (1) 担い手への農地集積・集約化事業【公益事業】 予算額 18,066,000 円

#### 《農地中間管理事業【継続事業】》

茨城県農林振興公社（茨城県農地中間管理機構）からの受託事業として、農地の出し手と担い手の募集を行い、互いのマッチングによる農地集積・集約化を進めます。

【目標値】 農地集積面積 146ha  
モデル地区 3地区（石井、来栖、稲田・飯合）

#### 《遊休農地等を活用した笠間の栗生産拡大事業【継続事業】》

市内の農家から栗ほ場や遊休農地を借上げ、適正な栗ほ場の管理を行うことで、良質な栗の生産に取り組みます。

また、今年度は剪定及びほ場管理の強化を図り、需要が高まる「笠間の栗」の面積あたりの収量の増加を目指します。

その他、農業の人出不足が深刻になり、福祉と農業を結びつける「農福連携」の取り組みが注目される中、社会福祉法人等と連携して栗拾い作業を行っており、今後も栗の収穫作業を通じた農福連携の推進を図ります。

【目標値】 公社（自社）栽培面積：18ha、目標収量：19t

### (2) 担い手育成事業【公益事業】 予算額 4,125,000 円

#### 《笠間市産ブランド米推進事業【新規事業】》

市からの受託事業として、笠間市産米の品質向上や維持、販路拡大に取り組む意欲のある生産者に対して、ブランディングを行い笠間市産の米の消費拡大や販路拡大の支援に取り組めます。

【目標値】 支援農家数 5件

### (3) 農産物販売・特産物の開発事業【収益事業】 予算額 29,705,000 円

#### 《農産物PR事業【継続事業】》

都内ホテル等へ栗ペーストを含む笠間産の食材を販売することで、公

社及び地元農家の販路拡大や所得向上に努めます。また、市内栗菓子店と協力し、都内イベントへ「笠間の栗」使用商品を出品することで、県外への更なる「笠間の栗」の認知度向上に取り組みます。

また、台湾交流事務所開設5周年記念事業の一環として、市から事業を受託し、笠間市がブランディングしている「笠間の栗」のペーストを本格的に輸出するとともに、台湾からも笠間の栗のブランディングを推進します。

【目標値】 栗ペースト出荷数量 7,000 kg

#### 《栗加工品販売事業【継続事業】》

「儲かる農業」を目指し、6次産業化のモデルケースとして、自社の栗ほ場での栽培から加工品の製造販売を通して、笠間の栗産業全体の生産性・収益性の向上を図ります。

販路については、公社独自のオンラインショップ等において、自社の栗加工品の販売を行うとともに、消費者への笠間の栗のPRを推進します。

【目標値】 販売数量 焼き栗 840 kg ・ むき栗 780 kg ・ 新商品開発 2 品

#### (4) グリーンツーリズム推進事業【公益事業】

予算額	0 円
-----	-----

#### 《グリーンツーリズム PR 事業【継続事業】》

市内の農業関係団体が行う、農産物のオーナー制度等（酒米田んぼオーナー制度）と連携した都市農村交流事業を実施するなど、笠間グリーンツーリズムを推進します。

#### (5) 笠間台湾交流事務所運営事業【公益事業】

予算額	23,120,000 円
-----	--------------

#### 《笠間台湾交流事務所運営事業【継続事業】》

開設5周年を迎える笠間台湾交流事務所では、これまで台湾国内での笠間市の認知度向上を図るとともに、観光客の誘致や文化教育面での交流を行ってきました。現在も台湾産バナナをはじめパイナップル、マンゴー等を市内の小中学校の学校給食へ提供するなど、台湾と食を通じた交流を行っております。

また、昨年度は、外国人観光客の入国制限緩和に伴い、訪日需要の増加を見込み、市からの受託事業によりインバウンドツアー造成を促進す

る事業を実施し台湾からの誘客を促進したほか、栗ペーストの台湾への輸出事業を市から受託し、農産物の販売促進を図りました。

今年度は、開設5周年関連事業を実施するほか、茨城空港から台湾への定期便及びチャーター便が就航を開始するなど、ポストコロナに向けて訪日客の回復の兆しをみせており、台湾交流事業の拡大の機会と捉え、更なるインバウンド誘客を進め笠間市への来客数の増加を目指します。

(6) 楽栗 LaKuri 運営事業【収益事業】

予算額 82,316,000 円

《楽栗 LaKuri 運営事業【継続事業】》

開店から3年目となる今年度も、店舗販売による「笠間の栗」PRの使命を全うし、公社重要収益事業として健全な店舗運営を行い収益拡大します。

その達成方法としては、材料確保及び機械導入による生産能力の増強と、店舗内オペレーション効率改善を実施します。季節や曜日変動性がある来客に対して柔軟性ある商品提供体制を整えることで、営業時間中の売切れイメージ・不満感の払拭効果を期待します。

同時に、定期的な新商品開発やテイクアウト対応強化、ネット販売など、リピーターや遠方客の確保に向け商品力強化を行います。

そして、店舗スタッフの習熟・定着が接客のみならず商品品質に直結することから、スタッフの売上や勤労への意欲が維持されるよう、成果貢献に対し適切に評価・還元される人事諸制度を構築します。

【目標値】

客単価平均	1,633円／(平日)	1,868円／(土日祝)
購買点数平均	2.8個／(平日)	3.4個／(土日祝)